

五輪開催は至上価値という全体主義

昨日 14 日で東京五輪開幕まで 100 日。写真は万博記念公園の太陽の塔の周りを走る聖火リレー（朝日 14 日朝刊）。わざわざ本社ヘリで撮ったようだ。



同紙夕刊「素粒子」では、（通常診療＋コロナ対応＋ワクチン接種）＋五輪＝医療逼迫へ。それでもやる？ やれる？ 開幕まで 100 日。

毎朝、自慢の「納豆オムレツ」を作り、6 時から NHK ニュースを見ながら朝食をとる。スポーツコーナーなどで、東京五輪・パラリンピック出場をめぐる選手の「感動ドラマ」が紹介される。選手たちの奮闘努力は認めるが、コロナ禍で五輪などを開催できるのか、開催していいのかと考える。納豆を食べながら、なっとくできない毎朝だ。

毎日新聞 10 日夕刊、表題の金平茂紀さん「週刊テレビ評」を途中から紹介したい。

この夏の東京五輪が予定通り開催されることが本当に人々にとってふさわしい選択なのか、そうではないのか。ブレーキをかけられる猶予が刻々となくなっている。感動で判断を誤ってはならない。

最大の懸念は、新型コロナウイルスの感染拡大だ。選手を送り出す国々の感染事情や医療体制が皆異なる。選手派遣どころではない国もあるだろう。五輪は日本だけでやるのではない。日本国内の感染状況は、諸外国に比べれば相対的には低い。だが危機的な状況にあることは変わらない。ワクチンの接種も遅れている。五輪開催予定時にワクチン接種が行き届いている可能性は低い。それでもやるか。すでに外国からの観客受け入れは断念されている。

日本の五輪組織委員会は、ここに来て森喜朗前会長時代と一戦を画すどころか、同じ体質を引きずっている所作が目立つ。国内での聖火リレーが先月、福島を起点にスタートした。その中継を僕もテレビで見っていた。沿道での見物は控えて。声援はやめて。その聖火ランナーの前を、大音量の音楽や DJ による派手な演出で大手スポンサーの車列が進んで行ったのを僕はテレビではなく、ネットで見た。東京新聞が批判的に報じた。他メディアはほとんど無視。それでいいのか。組織委の見解も不甲斐なかった。また、開会式の侮辱的な演出案をすっぱ抜いた週刊文春に対して、組織委は、何と業務妨害うんぬんと同誌の回収を要求した。笑止である。何が業務妨害か。

そして NHK が変だ。毎日新聞 4 月 6 日付記事が詳報した。長野市内を聖火ランナーが走っている様子を NHK は特設サイトで生中継していたが、沿道から「オリンピックに反対！」との声が聞こえるや音声ラインが突然カットされ、以降 30 秒間無音となった。NHK に五輪開催は至上価値という「全体主義」が流れ込んでいると想像したくない。今一度、五輪報道に「距離」と「覚悟」が求められる。でなければ大本営発表になる恐れがある。

(2021 年 4 月 15 日)